

御幸町だより

№ 139 2019年3月31日

〒 604-0933

京都市中京区御幸町通二条下る山本町 434

京都御幸町教会

TEL・FAX (075) 231-3441

<http://k-gokomachi.ciao.jp>

『^{くひ}軛の關係』(マタイによる福音書11:25~30)

牧師 村島 義也

主イエスは我々を招いて言われる、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」。この御言葉に先ず我々が期待するのは、「重荷」そのものからの解放であろうか。

しかし、主の招きはさらにこう続く、「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。

「軛」とは、^{こうらん}耕耘や運搬のために二頭の牛を一対に繋ぐ首にかける木製の道具。「軛を負う」ということは、荷を引く姿に変わりはないわけである。確かに、万物の源である神・御父の慈しみのうちに憩う日、荷を下ろす日は、主イエスが我々に与えて下さった福音である。しかし、その御国への旅路を人生としてなお辿りつつある我々は、荷を引くことから逃れられない、或いは荷を引くことが求められるということか。

「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし」と言う。確かに人生は荷を負い引いて行く道だ。その都度に、課題と責任、様々な労苦。その引いている荷が、人生の実感なのだとと言えるかもしれない。元気なときは、荷の重みを人生の手応えと感じる時すらあるだろう。しかし心の力が無くなると、重荷は忽ち耐え難い。心の疲れは荷の負荷を増す。そして人生途上、我々はしばしば「疲れた者、重荷を負う者」である。

「休ませてあげよう」と主は言われる。主がくださる「休まり(安息)」とは如何なるものであるか。

「わたしの軛は負いやすい」~「負いやすい」は「優しい・心地よい」の意。これは荷物の重さの事ではなく、軛の作りのこと。良い軛とは、注意深く形造られていて、すりむいたりすることなど最小限度でしか起こらないもの。主の軛は、我々の肩に優しく、荷を運び易くさせる~その意味において「荷は軽い」。大工に詳しいイエス様らしい譬だ。サイズを測って繊細に道具を整える職人のように、主は愛と配慮の御業をもって、我々が荷を引けるよう助けて下さる。

また、「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる」。一つにはこの言葉は、イエスご自身が我々の軛の相棒としてついて下さるということを示している。主は語るより、教えるより、共に軛を負うことをもって荷を引く術を我々に学ばせて下さる。

この際、主は「柔和で謙遜な者だから」と言われる。つまりこれは、絶えず一歩前、一歩前と厳しく相棒を引っ張り、痛みを負わせる乱暴な牛ではないということだ。軛と言えば、むしろ我々には「軛を争う」という言い方がある。〈互いにはりあって勝負を争う〉という意味だが、主イエスの軛の關係は、結果・成果で尻叩かれてグイグイ行かせられて、繋がっている事が苦しいようなこの世の現実とは違っている。

主は歩調を合わせ、一人一人と一緒に歩いて下さる。本当は、半分は主の力で引いていて下さるのに、その事に我々が気づかぬほどに絶妙に、一体の力となって我々を助けていて下さる。気づくべきは次のこと。荷を引く軛は、実は「私」の現実であるのだ。しかし、主なるイエスはこれを「わたしの軛」と言って寄り添い、助けとなって下さる。

「そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる」。この原語本文別訳~「(わたしの軛を負い、わたしに学びなさい)すると、あなたがたは魂に休息を見出す」。

荷を引いていく人生だ。しかし、我々が主に学び、主を信じるものである限り、我々の重荷全てに主は軛の關係を持って下さる。我々にとって主の軛を負うとは、人生において主と結ばれていることを望み、主を信じて生きるという事だろう。

何事にも独りの思いになりすぎないで、傍らの「柔和で謙遜な」方~目立たず、優しく居られる方の存在に気づかされよう。そして半分は主のお力が働いているのだと信じて見ると、無用な肩の力が抜けて、ふと心が軽くされる時もある。和らぎを得、謙遜にされる。荷を引くことの中にも与えられる「魂の安息」が、これであろうか。